



小牧山

戦国に馳せる

滋賀県立安土城考古博物館

学芸員 高木 叙子

第 20 回 天正 10 年の信長

天下統一事業の大詰め

天正 8 年（1580 年）に大坂本願寺を屈服させたことで、信長の天下統一事業はその勢いを増していきます。周囲には、まだまだ強力な戦国大名が割拠していましたが、信長は有力な部将たちをそれぞれの地域を担当する「方面軍司令官」に任命し、攻略を進めていきます。

北陸方面軍の司令官は宿老の柴田勝家で、天正 3 年の越前攻略以後は、一向一揆に苦しめられながらも越前、加賀、能登を従え、同 10 年には越中において、越後の上杉景勝と



▲勢力範囲図

対峙するに至っています。

甲斐の武田勝頼との最後の戦いの幕は、同 10 年 2 月に切つて落とされましたが、信長の嫡男である信忠を総大将に据えた攻略軍は、3 月 11 日には早くも勝頼を討ち取っています。関東の後北条氏については、信忠の副将を務めた滝川一益が攻撃の旗頭に任命されることとなりました。

中国地方の太守毛利輝元に対しては、天正 5 年以降、羽柴秀吉がその任に付いています。秀吉は播磨、淡路、山陰の因幡、伯耆と着実に駒を進め、同 10 年には、毛利方の拠点の一つ備中高松城（岡山市）を落城寸前に追い込んでいました。

四国の長宗我部氏に対しても、信長は三男の信孝を総大将とし、攻撃開始の手はずを整えていました。

本能寺の変とその後

各方面軍が戦果を上げていく中、信長の天下統一は成就するかに見えました。思わぬところで事業は頓挫します。有力部将の一人、明智光秀が謀反を起し、信長が命を落とすことになるからです。

天正 10 年 6 月 2 日未明、羽柴秀吉の援軍として備中に赴くため京都本能寺に宿泊していた信長を、同じく備中に出撃するはずの光秀が襲撃し

たのです。信長と、その後継者である信忠が同時に討たれたことは、その後の政権にとって大きな痛手となっていました。

しかしながら、本能寺の変の後に光秀についた武將は意外に少なく、備中から急遽引き返してきた秀吉らの軍勢と、13 日に山崎（京都府）で決戦に及ぶも大敗。光秀は近江坂本城に逃げ帰る途上、山科の小栗栖で土民の竹槍により絶命します。

27 日、尾張国清須（清須市）において、織田家のこれからのあり方を決める会議（清須会議）が開かれました。宿老たちの議論の結果、織田家の家督は信忠の嫡男で三歳の三法師が継ぎ、勝家、秀吉と丹羽長秀、池田恒興の 4 人がこれを補佐することに決まります。しかし、幼い三法師を擁する秀吉と、

信孝を推す勝家との反目は収まらず、政権内の分裂は新たな争いに発展していきます。



▲絵本太閤記（滋賀県立安土城考古博物館所蔵）

問合先 文化振興課 ☎76-11189